

二〇二四年度 大阪公立大学個別学力検査(一般選抜 前期日程)
国語「出題の意図・解答例」

第一問

問一は、以降の本文の内容を理解するための導入として、著者が憂える今日の人間のあり方を説明させる問題。傍線部直後の一文にある「人間」というイデー」という言葉をヒントとする。

問二は、著者の主張を理解するために重要となる比喩表現を、正しく理解できているかを問う。

(1)は、今日の世界の状況に即して、「暮色」が「濃く」なるとはどういうことかを説明する。(2)は、傍線部以前に述べられているモーツアルトの音楽の特徴をとらえ、なぜそれは「必要」とは言えないのかを説明する。

問三は、本文を理解するためのキーワードである「物のあはれ」について、本文中の引用文献に即して理解できているかを問う。表現がやや難解な引用文を読み込んで理解することが求められる。

問四は、問三をふまえて、「物のあはれ」について、小林秀雄の主張を受けた著者の解釈が理解できているかを問う。美学の問題として理解されがちな「物のあはれ」に、倫理、義が含まれているという主張を理解し、具体的に説明することが求められる。

問五は、ここまでの考察を受け、本文全体の趣旨をふまえて、筆者の主張を理解できているかを問う。「乱脈なリズム」に「踊らされる」、「旋律を取り戻す」という比喩表現を、自分の言葉で具体的に説明することが求められる。

第二問

問一(解答例)① 培 ② 草葉 ③ 軌(揆)

問二は、前文の「閉塞感」のこの文脈における意味を問う。原文は、「ロクな人生を期待できない」だが、これに相当する内容であればよい。

問三(解答例)ざるとにかかわらず

問四は、本文前半の内容を把握しているかを問う問題。「異世界転生物語」について述べられた第二段落と第四段落と、「諸宗教」について述べられた第五段落・第六段落から、共通点を抽出することが求められる。

問五は、「二人称」という言葉がこの文脈でどのような意味で用いられているか把握できているかを問う。

問六は、「リアリティ」という言葉の意味とともに、「科学」「物理的現実」とは異なる「人生という物語」という本文の鍵となる概念についての理解を問う。

問七は、本文後半の内容を把握しているかを問う問題。「中略」部分以降の説明の帰結、この文脈における「ヒリズム」の意味するところをまとめることが求められる。

第三問(A)

問一は、基本的な語彙の理解を確認するための設問。

問二は、基本的な助動詞の意味・用法を押さえながら、現代語訳できているかを問う。

問三は、まず(1)において、男の来訪の仕方をめぐる作者自身の意見を傍線部から読み取らせ、しかるのちに(2)において、作者が他の女房の意見に従えない理由を後続の文章から読み取らせようとするもの。

問四は、ここでの「語らふ」が男女関係をめぐる文脈で用いられる語であることを理解できているかを確認する問い。

問五は、当時の男女関係についての基本的な知識を問う設問。

問六は、傍線部の前後の文脈が押さえられているかどうかを問う。

問七は、最終段落全体から傍線部の言わんとするところを汲み取らせようとする設問。

第三問(B)

問一は、再読文字「猶」の読み方の正確な理解を問う。

問二は、本文前半において、「魯」の内部における主君と臣下の関係が、「天下」における「天」と「魯」「鄭」との関係に並行しているという論理を読み解けるか否かを問う。

問三は、この文脈における「何」(なんで)の意味を問う。

問四は、本文の後半の内容、すなわち、「魯陽の文君」と「子墨子」との間にある、天誅と三年間の凶作についての考え方の相違が把握できているか否かを問う。